

学校名「北海道幌加内高等学校」

氏名「高校魅力化コーディネーター 橋本 暁人」

幌加内高校では「地域みらい留学365」という内閣府のプロジェクトにより2年生の1年間だけ「国内留学」を行える制度に参画しています。

令和3年度に初めて1期生として留学をしてきた生徒の中に東京の通信制高校から留学してきた生徒がいました。他人とのコミュニケーションに苦手意識があり、留学当初はあまり積極的ではありませんでしたが、日を追うごとにクラスメートとのコミュニケーションにも慣れてきて会話にも慣れてきました。

少人数の高校ということもあり、彼にとって高校生活を続ける上で馴染みやすい環境だったのかもしれませんが。また、東京から人口1300人の町で生活を続けたことにより、アットホームな生活を送ることができたのかもしれません。

1年間の「地域みらい留学」を終えた後には東京へ戻り、在籍校だった通信制高校に戻りましたが、その後も生徒同士のLINEでのやり取りや、職員とのやり取りは続いていました。

冬になり卒業式が近づいたときに「卒業式に参加できますか？」と本人から連絡があり、当時の担任教諭や生徒たちはとても喜び、条件付きではありますが校長先生も快諾をしてくれました。

卒業式当日。少しばかり大人っぽくなった彼は照れ笑いを浮かべながら、本校の職員やクラスメートに迎えられました。1年間だけ、北海道の小さな田舎町の高校で過ごした経験と人間関係は彼にとって大きな財産となり、彼の保護者も卒業式で受け入れた幌加内高校の対応にとっても喜んでいました。

通信制高校では卒業式などはなく、幌加内高校の卒業式に参加できたことで、彼自身の自覚として高校を卒業したという感覚と、仲間の素晴らしさに再度気がついたのかもしれません。

卒業後は南米のパラグアイで農業研修に従事することになった彼の保護者からは「中学生の頃から不登校が続いていたが幌加内高校で学校生活と農業を学んだことで、大きく羽ばたいてくれた」と、感謝のメッセージが届きました。

留学当初は目を合わせて話すことも得意ではなかった彼ですが、留学が終わり1年後には自ら南米の地を選び、親元から大きく離れた土地で生活する積極性は、本校の同級生たちにも驚きと刺激を与えてくれました。

いつの日か、彼が日本に帰国して人間的な成長を遂げて、さらには1年間だけしか過ごさなかった幌加内という町を選択し、農業の担い手として戻ってきてくれることを、町も高校も望んでいます。